



わたしの夢

川俣小学校6年

今井

瑛斗^{えいと}

食べた家族を幸せにできる 寿司職人になりたい

わたしの夢は、私が握ったお寿司を食べたお客様が幸せな気持ちになる寿司職人になることです。私が寿司職人になりたいと思ったきっかけは、私自身もお寿司が大好きということもありますが、家族でお寿司を食べに行った時に、家族みんなが幸せそうな顔をしているのを見て「私もこのように家族を幸せにしたい」と思ったからです。また以前、目の前でお寿司を握る寿司職人を見てとてもカッコいいと思ったのも理由の1つです。両親に寿司職人になりたいと相談した時は「今は機械化が進んでいて職人自体になることが難しいと思うよ」と言われました。しかし、私は立派な寿司職人になって家族のみんなに握りたてのお寿司を食べさせてあげたいと思っています。寿司職人になるために家で寿司職人が寿司を握る動画を見たり祖父がたまに家で魚を捌くことがあるのを見て魚の捌き方を覚えていきます。修業に出たらまずはシャリを握れるように頑張りたいと思います。

町長のひとこと vol.31



10月8日「川俣高校同窓会東京支部」臨時総会に案内していただき、半谷川俣高校長、佐久間川高同窓会長と共に出席してきました。今年で77回目を迎えた同窓会の会場は、上野「精養軒」で開催され、川俣高校の卒業である諸先輩の方々50名の参加があり、伝統ある総会であると改めて感じました。震災前は、100名を超える参加者があったそうです。今回の臨時総会の議題は、コロナ禍により4年ぶりの開催となり、佐藤明支部長の挨拶では「東京支部でも高齢化が進む中、若い人の入会が少なく、役員の問題など同窓会の存続が厳しくなってきたため、東京支部については、首都圏にある「東京川俣会」との合流を模索していきたく、本総会でも「合流」について意見交換したい」との挨拶がありました。東京でも川俣と同様に会員の高齢化が進み、組織活動の難しさを痛感した総会でした。